

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	2371601150
法人名	医療法人 悠山会
事業所名	グループホーム ファミリア植田
訪問調査日	平成21年3月11日
評価確定日	平成21年4月14日
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ

**項目番号について**  
 外部評価は30項目です。  
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。  
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。  
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

**記入方法**  
 [取り組みの事実]  
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。  
 [取り組みを期待したい項目]  
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。  
 [取り組みを期待したい内容]  
 「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

**用語の説明**  
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
 家族 = 家族に限定しています。  
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。  
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。  
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月14日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2371601150		
法人名	医療法人 悠山会		
事業所名	グループホーム ファミリア植田		
所在地	名古屋市天白区植田一丁目1807番地 (電話) 052-807-8057		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社 ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7階		
訪問調査日	平成21年3月11日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(平成21年2月28日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年12月1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	14 人	常勤 7人, 非常勤 7人, 常勤換算 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート	造り
	4階建ての	1~4階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	70,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無	有(円)	有りの場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	270 円	昼食	300 円
	夕食	600 円	おやつ	200 円
	または1日当たり 1,370 円			

### (4) 利用者の概要(平成21年2月28日現在)

利用者人数	17名	男性	2名	女性	15名	
要介護1	3名	要介護2	3名			
要介護3	6名	要介護4	4名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	87歳	最低	76歳	最高	98歳
協力医療機関名	山内外科					

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

名古屋市東部国道153号線と地下鉄植田駅の中間にファミリア植田は立地している。主体は隣接する外科を含む医療法人であり、市内にはグループホーム、小規模多機能居宅介護、高齢者専用賃貸住宅を展開している。母体が医療法人であるため病院からの紹介による入居も多く、また、いざという場合の入院では近隣の総合病院と連携を取り合っている。ターミナルケアを実施しており実際に看取りも経験している。看取りは職員への精神的負担が大きい、最期まで入居者に寄り添うことで「いい最期だった」と家族から感謝され、生きること、老いることの意味を肌で学んでいると、管理者は感じている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	評価ではないが昨年市の監査により、衛生上トイレのタオルを頻繁に交換するよう指導され、現在は1回ごと洗濯に回せるよう、トイレの手洗いにはタオルが山積みされている。また、各居室のカーテンも不燃性の物に取り換えた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は、自己評価につき文章で回答することの難しさを感じ、日ごろ管理者からよく指導されている入居者のペースを守ることも、業務の繁忙の結果できていないと答えざるを得なかったことを反省した。管理者は自分たちの出した意見が外部の第三者の判断材料になると職員に徹底した。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	隔月開催の予定だがメンバーの都合で中止になることもたびたびある。メンバーは入居者家族、地域代表者、施設長を含む職員である。家族からは介護に対する要望も出され、職員に名札を付けることや帰宅願望の強い入居者がホームをまだ家と感じていないという不安も率直に述べられている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族は来所時に気づいたこと、要望を忌憚なく話してくれる。家族会はないが運営推進会議で家族から活発に意見が述べられ、認知症の啓蒙などの要望も出されている。また、「至れり尽くせりでは認知の進行が速くなる」など日常の心配を率直に述べられ、それに応えて職員は手を出さず見守る介護により、残存機能の強化に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	地域一帯は新興住宅街であり、駅を中心としてビル、マンションが立ち並び昼間人口の少ない地域である。そのため自治会の活動も活発ではなく住民同士の横のつながりが希薄である。近所の人に気軽に立ち寄ってもらう関係には至っていない。その中で地域の祭りに参加したり近辺の清掃に参加したり地元の人々と交流を図っている。また、よく利用する喫茶店では車いすにも快く対応してもらっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念では「今までと変わらない安らかな暮らし」を守ることを是とし、職員も業務よりもまず入居者の個々の日常のペースを乱さないことを管理者から徹底されている。各職員も行動規範として理念が徹底され、業務が集中してパニックになりかけると「とりあえず一回休憩しよう」と管理者から声をかけられ平常心を取り戻している。		入居者が日ごろから地域に溶け込み、人々に愛され地域の一員として生活するために、職員一同で地域に溶け込む入居者の姿をホームの理念として標榜できるよう取り組みに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念である「今までと変わらない暮らし」を実践するため職員全員が心がけている。職員配置の手薄な時、急変時には入居者のペースが守れなくなるが「とりあえず休憩しよう」との管理者の言葉で我に返り、再び入居者のペースを守っている。理念はリビングに掲示され各職員にも周知されている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域一帯は新興住宅街であり、駅を中心としてビル、マンションが立ち並び昼間人口の少ない地域である。そのため自治会の活動も活発ではなく住民同士の横のつながりが希薄である。近所の人々が気軽に立ち寄ってもらう関係には至っていない。しかし、その環境の中で地域の祭りに参加したり近辺の清掃に参加したり、地元の人々と交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は、自己評価につき文章で回答することの難しさを感じ、日ごろ管理者からよく指導されている入居者のペースを守り、業務の繁忙の結果できていないと答えざるを得なかったことを反省した。管理者は自分たちの出した意見が外部の第三者の判断材料になると職員に徹底した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>隔月開催の予定だがメンバーの都合で中止になることもたびたびある。メンバーは入居者家族、地域代表者、施設長を含む職員である。家族からは介護に対する要望も出され、職員に名札を付けることや帰宅願望の強い入居者がホームをまだ家と感じていないという不安も率直に述べられている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村とは事故の報告、生活保護係との連携等を図っている。入居の待機者がある現状で空き室状況の報告等も今までなかった。市の監査により、トイレのタオルを使いまわしではなく一回ずつ交換するように改善した。</p>		<p>行政に何か報告する、または何かしてもらおうというレベルを超え、行政には入居者の生活を豊かにするための有用な情報が常に豊富に用意されている。それらの情報を入手したり、活用したりすることでより入居者の生活に喜びを増す取り組みに期待したい。</p>
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホーム便りが発行され、各行事でこやかに笑う入居者の様子が各家族に郵送されている。郵送時にはその月の行事及び予算も報告されている。多い人は毎日、最低月1回はどの家族も来訪してくれる。毎週末入居者を連れて帰る家族もある。何か変化があれば直ちにホームから電話連絡される。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族は来訪時に気づいたこと、要望を忌憚なく話してくれる。家族会はないが運営推進会議では家族から活発に意見が述べられ、認知症の啓蒙などの要望も出されている。また、「ホームを家と感じていないので帰宅願望が強いのでは?」「至れり尽くせりでは認知の進行が速くなる」など日常の心配を率直に述べている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>定期異動はない。開設からの職員も3名ほど在職している。現在法人が新施設を立ち上げており、その開設メンバーとして職員が抜擢されたので、その点で家族に不安を与えたかもしれないと管理者は感じている。家族には手紙で離職報告をしているが、寂しがる入居者にはその職員の新たな職場まで遊びに連れて行ったり、逆に休日に遊びに来てもらったりしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の負担で研修を受けられる制度はあるが実際に利用する職員はいない。管理者はその点について今後の課題と捉えている。法人内の各施設間、または天白区、昭和区の各介護施設での勉強会もあるが、出席するのは管理者などが対象である。介護講習へ通う職員には授業に支障がないよう勤務シフトに配慮している。		近隣の介護事業者との勉強会はあるが不定期であったり、施設長、管理者などの参加であることから、職員各位も参加しその経験、スキルに見合った研修が受けられるシステムづくりに期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の認知症グループホーム連絡協議会には法人が加盟し、役員として活躍しているがホーム職員の参加はない。昭和区、天白区の介護事業者の交流も不定期であり、今後ネットワークづくりが課題となっている。法人内の各施設の会議もあるが施設長、管理者の会合となっている。		ホーム、あるいは職員の悩みなどは、そのホームだけで抱え込むことなく同じような悩みを抱える仲間がいれば、共に共感、解決し、互いにレベルアップが期待できる。入居者により良い環境を提供するために、職員同士の交流に期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会はいつでも受け入れ可能である。空き部屋があれば最大7日間まで体験宿泊も可能である。居宅からの人は必ず自宅を、病院からの人は必ず病院を訪ね、看護師、家族、ケースワーカーと病歴、服薬、注意事項など綿密に打ち合わせをしている。入居時に落ち着かない人には、馴れるまで家族に泊ってもらい、ここが家だと感じてもらうようにしている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	管理者及び職員は介護するのではなく、一緒に生活する仲間として入居者に接している。車椅子の人も他人に頼らず1階から4階までを自由に行き来し、自分のできる範囲で掃除、裁縫、食事の下ごしらえ、食器拭きなど自分の仕事として取り組んでいる。職員が疲れた顔をしていると入居者から「大丈夫？」と声をかけてもらい、元気を回復していると多くの職員が感じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>以前絵の先生をしていた入居者は、今でも他の入居者の肖像画を描いたり、会社を経営していた人は、今でも計算が強くその能力を皆から一目置かれている。その会社があった地域に住む職員とはよく思い出話をしている。また、馴染みの職員と阿吽の呼吸で、はたから見てるとけんか腰の会話だが、本人はその会話を楽しんでおり、それで不穏も解消され本音もうまく聞き出せている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は担当制をとっているが、職員の感性を反映できるよう毎日の申し送りで情報、意見交換を行い必要に応じて記録をとっている。各種の情報や計画作成担当者が得た本人、家族の要望を基に計画が作成され職員で話し合い決定し、入居直後は3カ月で見直しを行なっている。職員は介護日誌で計画を認識しながら日々介護にあたり、家族へは来訪時に説明、印鑑をもらっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期(3カ月)、長期(6カ月)の目標をたて通常6カ月で見直しをしている。ケアチェック表を使用し、当日出勤の職員の参加でカンファレンスを開催し意見交換、話し合いのもと、継続、見直しの検討を行なっている。対応が極めて困難な場合は医師等の意見も仰ぎ、トータルで計画の見直しをしている。本人や家族から新たな要望や状態に変化があれば、その都度見直しを行ない、現状に即した介護計画を作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師2名を職員として配置し、医療連携体制加算をとっている。ホームに隣接して法人の医院があり、介護相談の受け付け、体験入居への連携、医師と24時間連絡可能であること等が入居者、家族、職員の安心に繋がっている。入院時には見舞いに出かけ、早期退院に向け情報交換を行なっている。また、場合によっては法人の昭和区にある小規模多機能施設の利用も視野に入れて支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホーム協力医での健康診断受診で主治医の変更を了承してもらっている。週1回協力医や歯科医の往診、週2回リハビリ専門医による支援が行われている。協力医以外の他科受診は家族にお願いしているが今はほとんどない。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応に係る指針」として終末期介護における目的、介護指針、今後の活動、組織体制を示し同意を得ている。今までに1度看取りの経験があり、職員は精神面で辛さや不安も経験したが、家族からは心のこもった介護に感謝された。今後、重度化に応じた人員体制の確立も考慮し、状況に応じて医師、看護師、家族、職員で話し合い、最善を尽くして取り組んでいきたいと考えている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々職員は入居者の誇りやプライドを損なったり、距離感を感じさせる言葉かけや対応をしないように心がけている。フロアで行う申し送りの情報交換時には、個人名を伏せ居室番号を用いている。個人情報に関して公開する情報、利用の目的、利用範囲を明確にし同意書を取り、書類等は事務所で保管、個人情報の漏洩防止に気をつけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	車いすの人が多く、体幹に支障がなければ自走で散歩にも出かける。春になったら週2~3回は散歩したいと思っている。喫煙者があり、たばこ、ライターは職員管理のもと、室外で見守られて喫煙している。晩酌をしたくなると職員と酒を買いに出かける人もいる。毎週末家族が迎えに来て外泊するのを楽しみにしている人もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は食事作りの仕込み、盛り付け、後片付けなどできる範囲での手伝いを支援している。配達食材を時には入居者の状態に合ったメニューに変更し、誕生日には刺身入り豪華ちらしずしやケーキ等でお祝いし、酒を好まれる方にはあまり制限せず楽しんでもらっている。目の前で介助されることに抵抗のある方へは着座位置を工夫し職員もともにテーブルにつき入居者と一緒に食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には1日おきに入浴しているが、希望があれば毎日でも可能で、時間帯は昼食後から夕方頃で夜間等の希望はない。個々の状態により見守り度、介助人数を考慮しており、今のところ同性介助へのこだわりはない。浴室暖房の設備もある。拒まれる方には無理強いせず時間をおいての声かけや対応を工夫し、清拭やシャワー浴に切り替えることもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや日々の生活より得た情報から裁縫や小物づくり、洗濯干しやたたみ、掃除などの家事、花や野菜作りの水遣り等個々の趣味、得意なこと、できることを活かせるよう支援している。職員と塗り絵や折り紙等も行われ、作品が居室やリビングに掲示され、収穫した野菜は食事に取り入れている。身体を日常的に動かす体操も強制せず行いたいと考えている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の公園、本屋、100円ショップ等へ散歩に出かけている。車椅子の方も地元の顔なじみの喫茶店でのモーニングは楽しみの一つになっている。花見やフラワーパークで果物狩り、足助の紅葉狩り、初詣等季節に応じた外出や家族も参加して下呂一泊旅行に出かけたこともある。今後、身体レベルによる行楽先の割り振りの考慮も必要になると考えている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はオートロックで不審者が出る等ホーム周辺の治安は不穏、不安定で油断できない状況なので防犯上施錠している。階段のすぐそばの扉、開けてすぐ段差のある扉は日中は見守りで対応し夜間帯のみ施錠している。リビングは鍵をかけず洗濯物や水遣り時等自由に出入りできる。夕方帰宅願望で外出される方には職員が見守りながら外を散歩し気分転換をはかっている。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に1回、想定を設けて消防署の指導による避難訓練を行っている。1階の玄関と4階のベランダへ入居者の避難誘導を実施し、4階は隣接の医院の助けを得る手はずになっている。消火器等の備品は年1回点検を行い、防火管理者は施設長が務める。災害時の備蓄品は準備保管されていない。		ホームだけの訓練でなく、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施や災害時に備えて食料、飲料水、紙食器等の備蓄品を整備されることに期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は配食業者の作成で栄養必要量が確保されている。食事や水分摂取量は個人介護記録に記入し変化があれば原因の調査、対策を実施している。身体状況に応じて食事形態(お粥、刻み、ミキサー)を個々に変え支援している。便秘対策としてしっかりと身体を動かしたり、牛乳、バナナ、ヨーグルトの摂取、水分のこまめな摂取を促している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	メゾネット式で入居者は日中は概ね1階と4階のリビングで過ごしている。テレビ、ソファ、食卓が置かれ、テーブルを囲んで座るスペースは冬場にはコタツを出し多様に過ごせるよう工夫されている。エレベーターが2基あり自由に居室へ行き来できる方もある。壁には四季折々の風情を感じさせる物や外出時の写真が飾られている。洗面所、トイレのタオルは使い回しせず、その度各自1枚づつ使用し清潔保持に努めている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は2階と3階で、扉には名前とともに折り紙で作った季節のお雛様が飾っており、居室間違い防止にもなっている。タンス、ベッド、ロッカーが備えつけられ、入居者の馴染みの家具や小物、電化製品などを置き、壁には写真、折り紙作品など飾って居心地のよい居室になっている。また、自己管理できれば刃物類の持ち込みも可能で、新聞を購読される方もある。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。